

【日時】平成31年1月26日(土)

会 議 13時30分～17時20分

情報交換会 17時30分～19時30分

【場所】東京薬科大学(〒192-0392 東京都八王子市堀之内 1432-1)

【委員長】益山 光一(東京薬科大学)

【出席者】65大学から71名の教員が参加した。

【配布資料】

資料1 平成30年レギュラトリーサイエンス分野教科担当教員会議プログラム

資料2 出席予定者名簿

資料3 レギュラトリーサイエンス教育に関するアンケート結果について

資料4 名古屋市立大学大学院薬学研究科レギュラトリーサイエンス分野 頭金先生資料

資料5 岐阜薬科大学グローバルレギュラトリーサイエンス研究室 塚本先生資料

資料6 就実大学薬学部薬理学教室 西村先生資料

【会議内容】

- 1 開催校を代表して、大野尚仁薬学部長より挨拶があった。
- 2 委員長より、レギュラトリーサイエンスの薬学教育における基礎的なデータがこれまでなかったことから、今回、ご参加の先生方を対象にアンケートを行った。その結果について説明が行われた。
 - ・医薬品を中止として、RSの目的や定義を中心とした講義が主流であったこと。
 - ・講義の中心は4年生で、次いで3年生であったこと。
 - ・演習でも同様な傾向であったが、講義数や対象として6年生が増加している点に違いがあった。
 - ・主として大学教員が講義しているが、担当教員の分野は、法規、病態・薬物治療、食品・衛生、物理・化学、免疫、薬物動態と広い範囲であったこと等を発表した。また、そのアンケートを踏まえ、講義事例や課題について、委員長指名により、3名の先生方に講演をお願いした旨の説明を行った。
- 3 レギュラトリーサイエンス教育の各大学の取り組み紹介事例として、以下の先生方が講演を行った。
 - 名古屋市立大学大学院薬学研究科レギュラトリーサイエンス分野 頭金 正博 先生

名古屋市立大学学部教育の紹介と、レギュラトリーサイエンスにおいて、「レギュラトリーサイエンスに係る教材や教育方法の開発に関する調査研究教材案」の報告書や食品の安全性評価について具体例を交えて講義していること、大学院で具体的なグループ演習等を実施している点についてご紹介いただいた。

○岐阜薬科大学 グローバルレギュラトリーサイエンス研究室 塚本 桂 先生

レギュラトリーサイエンスをベースとした研究をどのように実施したのか、ドライ研究での苦悩、さらに自分の専門に限らず、幅広い範囲で研究を実施している現状等について紹介いただいた。

○就実大学薬学部薬理学教室 西村 多美子 先生

レギュラトリーサイエンスを学部では新薬開発論、医薬品等評価学等で実施している。学生には、規制当局の考え方、臨床現場や患者の立場からの考え方を比較し、自ら科学的に判断する能力を身に付けることを心掛けているとのこと。その中であえて正解のない問題の対応策を考えさせるテスト等を実施しているとの紹介があった。

4 委員長より次年度の委員長、開催場所については後日調整する旨の報告があった。
(後日の調整により、西村多美子 就実大学薬学部教授に委員長を引き受けて頂くこととなった。)

5 最後に、井上 勝央 (東京薬科大学薬学部教授) より総括を行い終了した。